

3. 「富士五湖ボーリングコア試料中の珪藻組成解析」

これまで、河口湖、山中湖、本栖湖の湖底で得られたボーリングコア試料中の珪藻組成を分析することにより、それぞれの湖沼の成り立ちを明らかにしてきた。

今回は山中湖に近く、かつては宇津湖と称した大湖沼を形成していたと考えられてきた忍野盆地のボーリングコア試料を解析した。

ボーリングコアは忍野村忍草地域で地下 60mまで採取された。表層から 4.2m までの礫混じりシルト層では珪藻は全く見られなかったが、5.3m～5.5mの礫混じり粘土層では *Cyclostephanos* spp. (図1) を優占種とする珪藻群が観察され、湖沼を形成していたことが確認された。この結果と山中湖で見られた珪藻群集を比較すると、組成が大きく異なり、宇津湖という同一の大きな湖沼を形成していた可能性は低いものと考えられた。

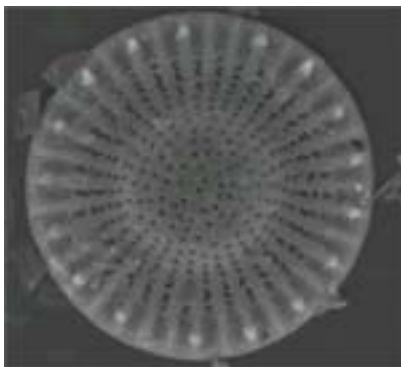
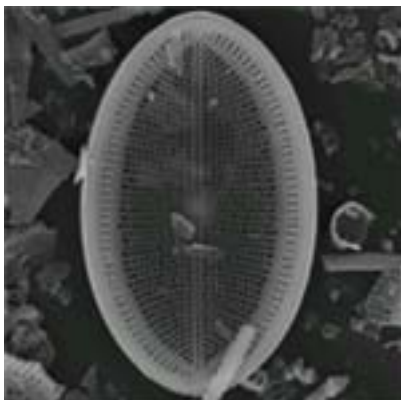


図1 *Cyclostephanos* sp.



Cocconeis sp.

